

専門学校の情報リテラシークラスにおけるオンライン授業 Remote Lectures for Computer Literacy Courses at Vocational Schools

森下 浩平

Kohei Morishita

大阪経済法科大学

Osaka University of Economics and Law

kohei@kobe-ocn.jp

Abstract

This study reports the students' responses to the questionnaires regarding remote lectures for computer literacy courses at two vocational schools compared with those at a university.

Keywords — Remote Lecture, Computer Literacy Course, Questionnaire

履修者数	99名（有効回答は86名分）	92名（有効回答は78名分）
授業回数	23回	15回
主な授業形態	対面とオンライン（リアルタイム）	オンライン（リアルタイム）

1. はじめに

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置の影響で、各教育機関はオンライン授業の実施を求められるようになった。2021年度についても、高等学校以下の教育機関のほとんどは対面授業に戻ったものの、専門学校や大学の多くでは、引き続きオンライン授業を余儀なくされている。

複数の教育機関がウェブ上で公開している、オンライン授業についてのアンケート調査の結果によると、「対面授業に比べて課題が多い」「目や首や肩の疲労が大きかった」などのネガティブな意見と「講義の録画が何度も見られて、復習がしやすい」などのポジティブな意見が、いずれも共通して見られる [1][2][3]。

本稿では、2020年度に著者が教育機関4校で担当した授業のうち、専門学校2校でのアンケート調査の結果について、授業科目（情報科学）と授業内容（情報リテラシー）がこれらの専門学校と同じで、授業形態（対面とZoomによるオンライン vs Zoomによるオンラインのみ）が一部異なる大学1校との比較を行う。

2. 授業形態

上述した専門学校2校と大学1校での授業について、表1にまとめる。

表1 各教育機関の授業

教育機関	専門学校（2校）	大学（1校）
学年	1, 2年生	1年生
クラス数	3クラス	2クラス

情報リテラシークラスでは、パソコンを操作して基礎的なコンピューターおよびワープロソフトや表計算ソフトなどの使用方法を習得することを目的としている。2020年4月に1回目の緊急事態宣言が発令された当初は、専門学校と大学はいずれもオンライン授業であったが、専門学校の場合は全校生の人数が少ない分、授業のカリキュラムが大学ほど複雑ではないためか、のちに対面授業が可能となった。

3. オンライン授業に関するアンケート調査

2020年度前期と後期の最終授業（後期は専門学校1校のみ）で、オンライン授業に関するアンケート調査を実施した。専門学校と大学でアンケート項目が一部異なっているため、共通する項目についてのみ、表2に示す。

表2 オンライン授業に関するアンケート調査
（一部抜粋）

#	質問項目
1	オンライン授業で困ったことや戸惑ったことはありましたか
2	オンライン授業の時間配分は適切だったと思いますか
3	オンライン授業と対面授業のどちらが良いと思いますか
4	3で選択した理由を書いてください
5	授業全体を通して気付いたこと、改善してほしいことはありますか
6	授業の感想や要望などを書いてください

上記の1～6に対する回答について、大学生92名中78名および専門学校生99名中86名から、データを公表することに対する同意を得た。表2の質問1に与えられていた選択肢およびそれらを選んだ人数を、表3に示す。複数回答可としたため、延べ人数となっている（カッコ内は全体における回答者の割合）。

表3 オンライン授業で困ったことや戸惑ったこと

	専門学校	大学
ネットワーク環境が不十分	20名 (23.3%)	28名 (35.9%)
コミュニケーションについての不安（意思疎通がしにくい）	19名 (22.1%)	10名 (12.8%)
パソコンやソフトウェアなどの学習環境が不十分	14名 (16.3%)	11名 (14.1%)
集中しにくい	10名 (11.6%)	13名 (16.7%)
課題が多い	4名 (4.7%)	11名 (14.1%)
特に問題はなかった	38名 (44.2%)	34名 (43.6%)

特に問題はなかったと回答した学生が、専門学校、大学ともに40%強であった。ネットワーク環境が不十分であると答えた学生は、完全にオンラインで授業を行っていた大学のほうが多かった。一方、専門学校には学習管理システム（LMS; Learning Management System）がなかったためか、コミュニケーションについての不安が大学よりも大きい傾向が見られた。

質問2の回答について、表4に示す。

表4 オンライン授業の時間配分は適切だったか

	専門学校	大学
とても短く感じた	0.0%	1.3%
やや短く感じた	0.0%	1.3%
適切だった	79.1%	78.2%
やや長く感じた	15.1%	15.4%
とても長く感じた	5.8%	3.8%

専門学校からも大学からも、オンライン授業の実施時間は最大でも45分程度にしてほしいと言われていたが、通信環境が不安定な中で、対面であれば必要のないような操作上の説明をしながらテキストの内容を網羅しようとする、実際には80～90分程度かかってしまった。全体としては、専門学校と大学で同じような傾向が見られ、8割程度の学生が適切だったと答

えているものの、残りの2割程度の学生は長いと感じていた。

質問3の回答について、表5に示す。

表5 オンライン授業と対面授業のどちらが良いか

	専門学校	大学
対面授業が良い	74.4%	26.9%
オンライン授業（Zoom）が良い	10.5%	53.8%
半々（隔週）	4.7%	6.4%
その他	10.5%	12.8%

2020年度の授業において、オンライン授業と対面授業を両方経験した専門学校生は対面授業のほうが良いと答え、対面授業を経験していない大学生はオンライン授業のほうが良いと答える傾向がみられた。

専門学校において対面授業のほうが良いとする意見としては、「質問しやすい」「隣同士で協力し合える」「ネット環境やパソコン環境が整っていない」など、コミュニケーション（意思疎通）に関しての意見が多かった。一方、オンライン授業のほうが良いとする意見としては、「コロナが心配」「家のパソコンの方が使いやすい」「集中できる」など、学習環境に関しての意見が多かった。これらの意見は、上述したウェブ上で公開されているアンケート調査の結果とも合致している。

4. まとめ

授業全体を通して気付いたこと、改善して欲しいことについては、「授業は対面の方が絶対に分かりやすい」「ネットワーク環境のトラブルを改善してほしい」「動画配信形式にしてほしい」「YouTubeもあればいい」など、動画配信を希望する学生が非常に多かった。そこで、2021年度前期は、通信回線の負担や身体的な負担を考慮し、StreamやYouTubeなどを利用した配信型（オンデマンドのみ）、あるいはリアルタイム授業の実施回数を減らした複合型（リアルタイムとオンデマンド）の授業形態を取ることにした。

専門学校2校では、2020年度はオンライン授業から対面授業に切り替えたことにより、学生は両方の授業形態を経験することになったが、2021年度は2校がそれぞれオンライン授業のみと対面授業のみになった。最終授業で新たにアンケート調査を実施し、その結果について比較・分析する予定である。

参考文献

- [1] utelecon: オンライン授業・Web 会議ポータルサイト@東京大学. 「2020 年度 S セメスター オンライン授業に関するアンケート結果概要 (学生版)」.
<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/questionnaire/student/>,
(参照 2021-07-08)
- [2] 岡山大学 高等教育開発推進センター. 「第 1 回 オンライン授業に関するアンケートについて」.
https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/hedi/kakusyusiryosurvey_onlineclasses/, (参照 2021-07-08)
- [3] 大正大学. 「オンライン授業に一定の教育効果～対面授業時のスコアと比較分析 「オンデマンド配信型」 は大幅にスコア上昇～」.
https://www.ris.ac.jp/pressrelease/2020/press_001.html,
(参照 2021-07-08)